

風

(現場)からの

宮田守男

明日は、1809年
この日に正岡子規が
奈良旅行で詠んだ「柿
食ふは 鐘が鳴るなり
法隆寺」にちなみ
「柿の日」。ひと昔前
は、橙色に色づき食べ

ごろを迎えた柿の美る
風景は農村の暮らしに
根ざした風景で秋の風
物詩。柿の木がほとん
どない白馬は羨ましい
と感じ、農地と交換し
てまで柿を求めた話は
懐かしい想い出だ。
年少の頃、渋柿を収

伐採希望者に補助金を
交付し伐採するなど、
昔から続く農村の暮ら
しに根ざした風景も
徐々に変化している。
変貌する自然だが
「自然」はよく考えれ
ば不思議な言葉だ。高
島俊男さんの「漢字維

だけが残ったのは、「シ
ネン」と読む別の言葉
があったからだと解説
している。自然は守ら
なければと、読み方
も強くメッセージして
いるのだろうか。
日没すると寒さを感じ
る季節、最低気温が

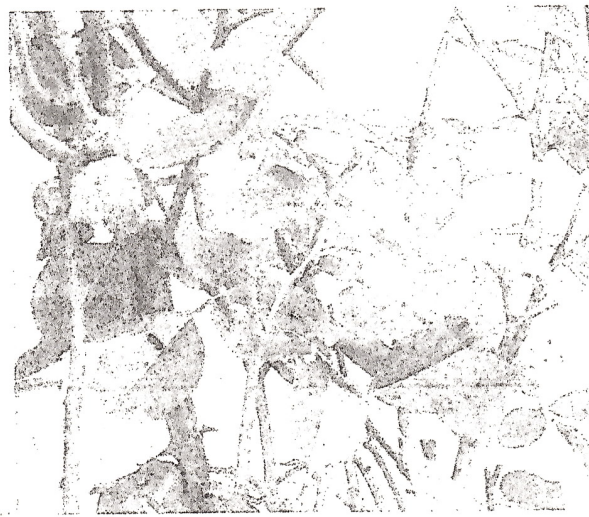
秋の情景を地域に存続させよう

種し稲モミの上に並べ
て熟し、トロトロに柔
らかくなった「熟柿」
を冬に味わった楽しみ
は今も記憶に残る。
だが、全国各地では
クマが大量に出没して
人身事故も発生してい
る。行政は民家の周囲
に植えた栗や柿の木の

「自然」はよく考えれ
ば不思議な言葉だ。高
島俊男さんの「漢字維
分「自信」などほとん
ど「シ」と発音する。
シは「漢音」で、シは
「呉音」、古くはシと
読む単語も次第にシに
落ち着いた。「シセン」

8度を下回ると紅葉が
始まり5〜6度で急速
に進むことから「紅葉
のスイッチは8度」な
ど言われるが、今年
は急な冷え込みで、紅
葉が奇麗だとの情報が
全国各地から伝わって
くる。
歌碑めぐりをしたい

自宅軒下のバラの木の地上2メートル以上の枝にカマキリ
の産卵は、冬の積雪に期待してしまふ。



るグループから「白線
流しの歌碑は」と尋ね
られる。「大出の吊り橋
の近くです」と答える
と歌碑の成立を聞か

れ「地元白馬高に伝わ
る白線流しの風習を題
材に約50年前に沖雅也
さんと仁科明子さん主
演の白馬を舞台にした

『早春物語』のドラマ
放映を記念して歌碑を
建立した」と伝える。

大北地域では大町市
文化会館の「大町高校
の校歌の作詞者が作詞
した早春賦の歌碑」、
池田町でてる坊主の
館(浅原六郎文学記念
館)の池田町出身の浅
原六郎が浅原鏡村とし
て作詞した「てるてる
坊主の歌碑」と楽しそ
うに歌碑巡りの魅力を
話す。改めて文学碑の
魅力を知ることがで
き、地域内に多くの石
碑があれば地域の魅力
になるに違いない。
(信州地域社会フォー
ラム会員・白馬村森上)